

令和6年産コシヒカリ湛水土中直播（カルパー）栽培こよみ

●射水市農業技術者協議会
 ●射水市 ●JAいみず野
 ●富山県高岡農林振興センター
 ●高岡地域農業共済センター
 ●全農とやま

重点技術対策

1 出芽・苗立の確保

苗立本数: 60~80本/m²
 (18~24本/m)

- 圃場の均平化
- 適正な播種量による苗立確保
播種量: 2.7kg/10a
- 播種深度の確保: 5~10mm
- 播種後の田干しの徹底
(5~7日程度)
- 田干し後の浅水管理
(播種後7日後から入水する)

2 適正な葉色への誘導

- 適正基肥量
LPss直播コシヒカリ
沖積粘質土: 27kg/10a
砂質浅耕土: 30kg/10a
- 適期の中干し
茎数 100本/mから開始

3 病虫害防除

- 穂いもち・カメムシ類等の防除
(8月上旬)

4 稲体の活力維持

- 幼穂形成期から出穂までの飽水管理
- 出穂から20日間の湛水管理

亀裂が入る程度



【播種後の田干し】

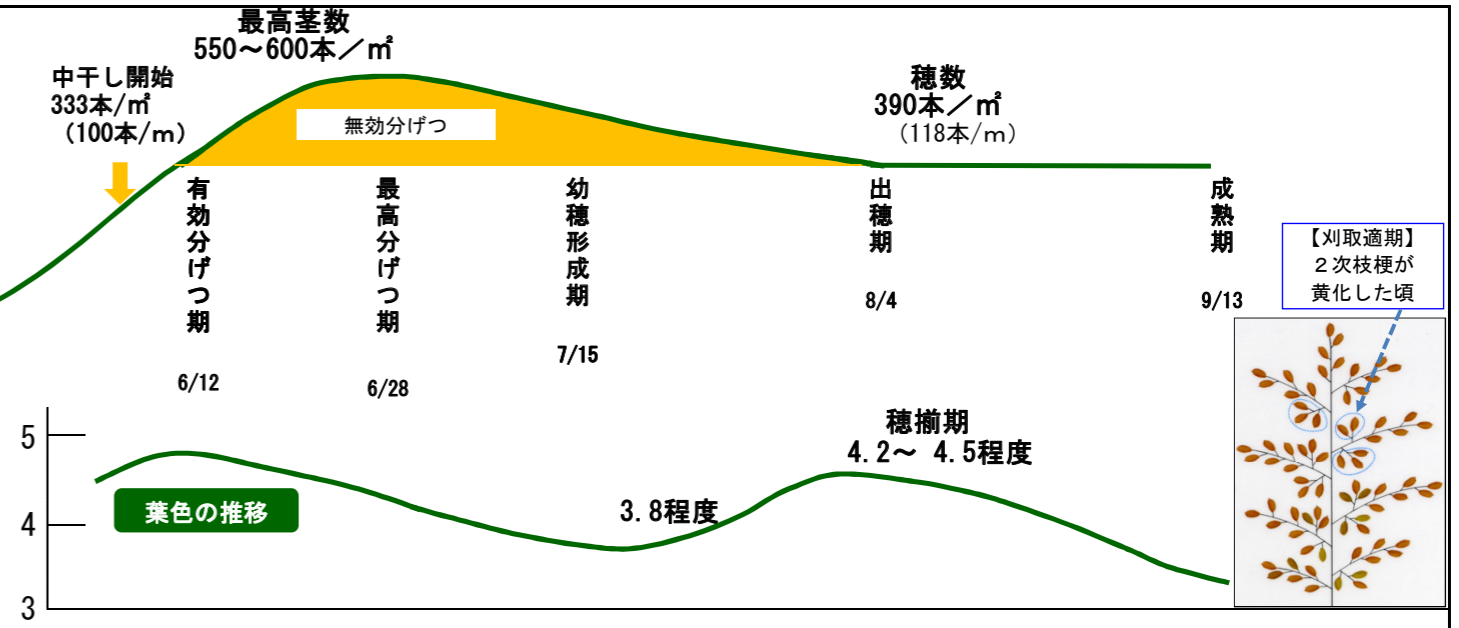


【入水の目安】

播種量
2.7kg/10a

苗立本数
60~80本/m²
(18~24本/m)

茎数の推移



月	3月	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月
旬		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育期				播種期	出芽・苗立期		有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期		登熟期								
作業体系		荒代	代かき	播種	播種後の田干し	浅水管理	溝掘り	中干し	間断かん水	飽水管理	湛水管理	間断かん水	刈取り							
水管理				田干し 5~7日間程度	散布後 7日間は落水しない	(暖かい日に芽干しする)				(足跡の水が切れないように)		出穂後20日間	(落水を急がないように)							

栽培管理のポイント

- 圃場の均平**
 - ・前年と同品種または転作あと田とする
 - ・直播栽培する圃場は、漏生籾による異品種の混入を防ぐため圃場選定
- 代かき作業**
 - ・荒代後は浅水で湛水し、雑草の発芽を促すため、耕起前に高低差をなくす
 - ・圃場の均平が出芽揃いや除草管理等に大きく影響する
- 播種作業**
 - ・加温処理した種子は、1日以内で播種する
 - ・種子の加温処理 : JAにて加温処理済み
 - ・少ない水で代かきし、均平に努め、練りすぎに注意する
 - ・播種の3~4日前に代かきを行う
- 播種後5~7日間の田干しの徹底**
 - ・圃場全体を均一に干すため、播種後早めに溝を掘り、落水する
 - ・種子および肥料が落下しているか必ず確認する
 - ・生育量を確保するため、播種は4月末~5月上旬に行う
- 除草剤散布**
 - ・雑草の発生状況に応じて、中期除草剤を散布する
 - ・浅水管理で早期に茎数を確保する
 - ・除草剤散布 ※防除こよみを参照
 - ・雑草の種類や大きさに合わせて除草剤を散布する
 - ・籾葉が出揃い、スジ状になったら入水する
 - ・圃場全体に亀裂が入るまで、田干しする
- 中干し**
 - ・遅れずに中干しを開始する
 - ・有効茎の80%程度(100本/m)を確保したら6月上旬までに溝掘りを行う
 - ・中干し後は間断かん水を行う
- 飽水管理**
 - ・幼穂形成期以降は飽水管理により稲体の活力を維持する
 - ・色ざめしている圃場は、出穂3日前までに追肥する
 - ・出穂7日前の葉色が4.0以下(砂壌土4.2以下)と、生育に応じた追肥
 - ・基本防除
 - ・1回目: 出穂直前 ビームエイトスタークルゾル
 - ・2回目: 1回目の7日後 ラブサイドK2フロアブル
 - ・カメムシが多発した場合は3回目の防除を行う。
 - ・出穂後20日間の湛水管理
 - ・湛水管理で登熟向上を図る
 - ・適期刈取り
 - ・刈取りの1週間前まで間断かん水する
 - ・黄化率85~90%程度まで十分登熟させて刈り取る
- 秋耕し・土壤改良資材の散布**
 - ・土壌分析結果に基づき、土づくりを行う



【飽水管理】

収量構成の目標

項目	目標
m ² 当たり穂数 (本)	390
一穂粒数 (粒)	70
m ² 当たり着粒数 (百粒)	273
登熟歩合 (%)	85
玄米千粒重 (g)	22.0
収量 (kg/10a)	510